

下野コミュニティエフエム第13回放送番組審議会議事録

開催日時：2022年8月4日10時00分より	開催場所：下野市役所第304会議室
出席委員：伊澤・猪瀬・鈴木・根橋・山内	：5名

※発言については趣旨を変えない範囲で一部を省略・要約し、順不同で記載しています。

委員全7名のうち5名の出席をもって会の成立とし、10時00分に開会した。

1. 報告事項

・運営状況

運営報告

- ・緊急地震速報訓練を6月15日に行い、緊急告知ラジオの起動試験も行った。
- ・市内中学校職場体験学習に協力、5～6月に石橋中・国分寺中・南河内小中の各校から生徒を受け入れた。生放送の出演やスポットCMの制作をしていただいた。この後9月に南河内第二中も予定している。
- ・下野市長選挙開票速報特別番組を7月10日に実施、21時から結果が出る23時まで速報を生放送で伝えた。
- ・「しもつけピタッとラジオ」の特別放送を7月23日に三王山ふれあい公園から実施した。今月末には燈桜会に合わせて特番の企画を検討している。
- ・これから台風シーズンであり最近は地震も多いので放送体制をしっかりとやっていきたい。(ケーブルビジョン株式会社ラジオ事業部放送局長)

2. 審議事項

・議題①…番組内容について

事前に送付した資料(記録物)を各委員が聴取し、それに対して委員が意見を述べた。

※2022年6月30日放送「ミッドナイトハイスクール」

山内委員長：

番組の概要の説明を。

事業者：

「ミッドナイトハイスクール」は、毎週土曜午後11時から55分間の番組で今年4月開始。一般の高校生だけで制作・出演するのをコンセプトにしている。パーソナリティは現在、高校2年生のあおいとたいちの2名。共に一般公募での応募者。番組はこの2名が交代で制作とミキシングをし2人だけでやっている。トークなどおぼつかない部分もまだあるが、メッセージも多く届いており高評価をいただいている。

根橋委員：

応募があったのはこの2名だけか。

事業者：

今のところはこの2名のみ。

根橋委員：

トークもミキシングも選曲もレベルが高いと思った。「高校生の本音が聴けるかも」とある通り現代の高校生の生トーク、互いを信頼して出来ていて、非常に面白かった。

大学の見学の話題で、学内の雰囲気とか学食とか自販機の値段等の感想といった部分、私には思いつかない2人の反応などが面白い。

楽曲は5曲のうち3曲は知らなかったが、最初のM I S I Aと井上陽水はほっとした。流行りから懐メロまで盛り込んでいて気配りがあると感じた。

「40年ほど前に小山駅前にあった森永製菓」の投稿メッセージを受けてのトークでは、「昔はそうだった」と相手をリスペクトするような、聴取者との融合を図ろうとしていて、非常に好感を持った。

ただ、今の高校生、若者世代ではそれが普通なのか、早口で聴きにくい部分があった。

市内にも高校があるが、高校生のこういった経験はこれから社会に出ても役立つので、こういう番組にもっと協力しても良いと思う。

鈴木委員：

今の意見と同様に聴きやすく、2人の間の取り合いを素直に聴けた。パーソナリティとアシスタント兼ミキサーは次回逆になるのか。

事業者：

交代になる。

鈴木委員：

それを毎週とは大変だ。1週間でこれだけを良く考えたと思う。他のメンバーがもっといるものと思っていた。2人の呼吸が良く合って、言語も明瞭。原稿を読んでいるような感じではなく普段のおしゃべりのようなトークで聴きやすかった。

ただ、この年代の特徴なのか、評価はどうなのか解らないが、トークで「めっちゃ」を多用し過ぎと感じた。また、「食ってる」も気になった。相手もそれに引きずられたのか「わたしも食った」と。高校生らしいと言えばそれまでだが、少々考えても良いのでは。

トークは友達同士の話を立ち聞きしているようなイメージで、楽しいことは楽しいが、リスナーに向いているわけではなく2人で対話しているような感じで、それはそれでいいが、こちらに向いていない感じがする。ただ、メッセージの紹介ではところどころリスナーとのコミュニケーションがあったので良かったと思う。

猪瀬委員：

教室の放課後のワンシーンで、その廊下を通り過ぎるような印象。対象となる聴取者は同年代かと思うが、評価する側がかなりの年齢で評価が不能である。対象となる同年代が聴いているのかが大事だ。

マガジンでスタッフを募集していたが、次年の参加者を募集しているということなのか。事業者：

募集は10月に向けてしている。現状の2人は、2人に絞ったのではなく2人しか応募がなかったため、スタッフをさらに増やしたく募集をしている。

今の2人も1年で終わりではなくあくまで最低1年は参加するという条件で参加している。なのでさらに増やしていきたく募集している。

猪瀬委員：

3年生は受け付けないということか。

事業者：

受け付けないことはないが、受験の関係等もあり1年間の参加は事実上難しいと思う。また、応募の時点で1年間参加できる予定であることを条件としているので、卒業がある3年生は条件を満たさないことになる。なので3年生は実際難しい。

根橋委員：

現状の2人の応募動機はどのようなものか。

事業者：

面接で聞いたところでは、2人とも未知の世界を体験したい、ラジオが好きとのこと。2人とも親御さんがラジオが好きということで、男子は親御さんの勧めで応募したようだ。ただし2人は住まいも学校も別であり、参加するまで面識はなかった。

根橋委員：

(個人情報が含まれるので省略)

事業者：

(個人情報が含まれるので省略)

根橋委員：

どちらも2年生か。

事業者：

2年生で、たまたま2人とも同学年だった。

鈴木委員：

番組の打ち合わせというのはないのか。

事業者：

当然あり、番組前はもちろん、ライン等で連絡を取り合って在宅でしていると思う。

根橋委員：

では番組の構成や選曲等は連絡を取り合ったりして番組前の打ち合わせでまとめるのか。事業者側の関与はあまりないのか。

事業者：

基本的なやり方や構成等、土台となるものはこちらで提示するが、毎回のトーク内容や選曲などはほぼ任せている。ただ、曲に関しては5曲のうち1曲は70~90年代のいわゆる懐かしい曲を選ぶよう指示している。当人達が知らなくても、調べるなり周りの大人らに訊くとかして選ぶようにと。また、その回のトーク内容と選曲に関しては収録前に簡単に提出させてはいるが、口出しはあまりしないようにしている。

根橋委員：

それにしてもトークが良く出来ている。メッセージにも上手く対応し、違和感がない。大人だってなかなか出来ることではない。非常に感心した。大人に聴かせてやりたい。

事業者：

高校生が皆そうなのか2人が秀でていいのか判らないが、共にラジオ好きということも影響しているかも知れない。ラジオを好きで聴いていればトークの要領やメッセージへの対応も無意識に出来て不思議はない。

猪瀬委員：

編集(切り接ぎ等)はしているのか

事業者：

一切していない。他の録音番組もそうだが、生放送と同じように止めないで録っている。余程のことでなければやり直しもしない。少しの間違いなら訂正したり上手くカバーする。その方法に関して指導している。スタッフ自身にもスタジオの時間にも限りがあるため。

猪瀬委員：

素人がやっているようには思えない。放送部等(の所属)は問わないとのことだったが、とてもしっかりしている。そういう人材を選んだのかと思った。

事業者：

どちらも経験は当然なくそこまでの技量があるわけでもない。なのでまだまだこれから。

伊澤委員：

曲終わりのトーク前に毎回ちょこと曲が入るが(BGM)、それも彼らがやっているのか。また、自分達で選んでいるのか。

事業者：

トーク時の曲はこちらで選んだものを使っているが、通常の曲は彼らが選んでいる。

伊澤委員：

全体的には若者らしくて良かった。大学見学の話題など、若者らしい話題で良かった。また、メッセージで森永工場の話があり、工場の臭いの話なので変な方向にならないと良いと思っていたが、キャラメルの甘い香りが良い等、森永のイメージアップにも繋がり、トークの進め方も良く、今後も頑張ってもらいたいと思う。

山内委員長：

放送が土曜の23時だが、昼間に収録してそれをそのまま夜に放送しているということか。

事業者：

他の番組もだが、録音番組は収録から放送まで少なくとも中2日を置くことにしている。万が一何かあった場合に編集の必要が生じる可能性があるためだが。実際にはほぼない。従って収録も放送も同じ土曜日だが、1週間前の土曜日に収録している。

山内委員長：

リスナーは同年代の高校生をターゲットにしているのか。

事業者：

同年代が当然本来のターゲットだが、当局の聴取者は中高年つまり親の世代が現状多く、当の中学・高校生がどれだけ聴いているか。その中で高校生が発信する番組であるので、高校生から見て親やおじいちゃんおばあちゃんに向けてトークをするように、と言っても大人向けのトークではなくあなたたちの本音を出して、と指導している。

従って、本来は高校生や中学生をターゲットとしてはいるが、親や祖父母世代の大人が聴くに堪えうるような番組作りをしている。難しいところではある。

山内委員長：

だからこそ私達が聴きやすく感じたのかも知れない。選曲も若者向けのアップテンポやアニメのものもあったが、年配向けの曲も選んでいると考えていた。

ターゲットをそう設定して指導しているとのこと、納得した。トークもバランス良く構成されていると思った。

鈴木委員：

高校生のスタッフがもっと入ってくると番組ももっと広がっていくのではと思うが、このレベルのスタッフを集めるのは大変ではないか。そうでない人が来たら断るのか。

事業者：

そもそもレベルの高いスタッフを集めたわけではなく、現状の2人はたまたまだけ。よほど酷くなければ当然受け入れる。

根橋委員：

高校生スタッフ募集の採用基準はどのようになっているのか。

事業者：

まずやる気があれば良い。応募者はプロでは当然ないので、技術や経験がないのが前提。基本的に不採用にはしないつもり。放送の知識や技術的なことは入ってから学んでもらう。

鈴木委員：

募集要項にも出演・パーソナリティ・制作・技術などとある。適材適所ということか。

事業者：

本人の希望による。技術だけなど、出演したい人ばかりではない。

山内委員長：

訓練の期間はどれくらいか。

事業者：

概ね4～6日間程度の研修を受けてもらう。あとは実際に参加しながら学んでもらう。元は素人なので多少おぼつかないところは仕方がないと考えている。

猪瀬委員：

募集要項に「金銭は差し上げない、アルバイトではない」とあるが、どのようなことか。ボランティアではなくただ働きさせているなど感じた。

事業者：

アルバイト禁止の高校が殆どなので、金銭が発生するとアルバイトと見なされてしまい、参加できなくなるケースが出てくるため、それを考慮している。あとは予算の問題もある。金銭を与えてしまうと参加したくてもできない生徒も出てくるので金銭は一律与えない。それでも良いなら応募してということ。

また、金銭を与えないのは「ただ働き」ではとの意見もあるだろうことは承知している。しかしこれはボランティアでも労働でもなく、番組作りという体験をしたい一般高校生がこの条件の下で任意で参加する制度である。自分のために塾に行くのに金を払うだろうが、こちらはむしろお金をいただいたりしない。まして、素人の方に番組に参加させるために時間を割いたり指導したりと大変でもある。本来ならお金をいただきたいところである。

猪瀬委員：

アルバイトが可能な学校の生徒にはどうなのか。

事業者：

不平等になるので関係なく一律差し上げないとしている。アルバイトではないからこそ、誰でも参加できる。

鈴木委員：

交通費の実費も出ないのか。労賃と交通費の実費は別ではないか。

事業者：

出していない。交通費でも金銭の授受はアルバイトと見なされてしまう可能性がある。もちろん学校によるだろうが、経験上、そういうケースも考える必要がある。

鈴木委員：

学校でアルバイト禁止というところはない。あっても無断でするのは禁止ということ。アルバイトが社会参加の一環になる部分もある。就職に有利とか一般市民との交流とか。自分をアピールする材料にもなる。だからアルバイトするにしても許可願いを出せば良い。対価は貰わないが交通費の実費だけ貰う、と。無断でなければ理解ある学校もあるのでは。事業者：

ご指摘の通りだが、実際問題として生徒は学校にそういった面倒なことはしたくない、許可の申請とかしたくない、というところがある。それらも含め気軽に参加して欲しいという意味もありアルバイトではないとしている。許可が必要となると面倒くさいとなる。それが高校生の実情だと考えている。他にも理由はあるが、金銭はあえて与えていない。予算的な部分もあるが、敷居を低くしたいという趣旨がある。

鈴木委員：

他の局にも同様の番組はあるか。

事業者：

高校生がゲストや不定期で出演している番組は他局にある。ただ、定期的に出演したり自主的に番組を作ったりというのは恐らくない。

鈴木委員：

そういう能力のある生徒さんもいるだろうしもったいないと思う。

事業者：

やればできると思うが放送局側がやらせていないだけかと思う。

鈴木委員：

FM局でこういう番組は全国的にも珍しいのかも知れない。もしそうなら他の地区とは競合しないので、宇都宮や小山に高校がたくさんあるのでそういったところで募集しても良いかも知れない。

事業者：

その通りだが、各地域にも局があり方針なども各々あるので、現状では限定している。

根橋委員：

これは事業者が独自で考えた企画か。

事業者：

当局独自だが、この場でも高校生が参加する番組があった方が良いというご指摘もあり、またピタッとラジオで上三川高校の生徒さんにご出演いただいたりしていたのを踏まえ、もう少し幅広くと考えていた。皆さんのご意見も含め、満を持して企画した。

根橋委員：

トークのメッセージ性について、今後重要になるのではないか。例えば先日の市議選、選挙権は今18歳からで、この2人は選挙権はないが、若者の投票率を上げるなどの啓発を入れても良いのではないか。市長が代わるが、それをきっかけに市政に興味を持とうなど、そういったメッセージ性のあるトークをしても良いのでは。政治的な話題を入れろということではないが、選挙権や成人年齢の引き下げ等、問題も多く。そういったことに対する高校生の視点、その世代はこう考えているなど、採り上げて良いのではないか。

鈴木委員：

他の番組についてもそうだが、トークの内容が音楽やファッション・音楽・食べ物など、活文化に関わるテーマが多い。気軽に聴けるという点では良いが、もっとメッセージ性のある内容があっても良いのではないか。この番組の高校生もこれから社会に参加するし、社会の色々な問題を探り上げてメッセージ性を出しても良いと思うし、それが地域放送の役割の一つではないかと思う。

ただ専門家を呼ぶなどとなるとは経費や時間的な制約というのも確かにあるだろうし、一発録りとなると原稿を作っておかないと大変だ。と言ってもそれでは一方的な情報提供。トークでのやり取りがあった方が良いとは思う。

事業者：

各パーソナリティの準備の時間にも限りがあり、綿密な準備が必要な場合もあり難しい。元新聞記者のパーソナリティが制作しているそのような番組もあるが、広くは難しい。

山内委員長：

いきなり入れても雰囲気があるだろうから、今後の参考に。

3. その他

事業者：

今回は10月13日で予定したい。改めて通知させていただく。

以上、11時30分に閉会した。